

人間といふもの

教えについて
信楽峻磨

人間は誰でも、それぞれが生まれているものです。それは先天的生得つきの独自な体质、能力、性格をもつていています。それはDNA（遺伝子）といわれるものです。私たちの人生、その生涯のありようは、ひとえにそのようなもつて生まれた因子によって形成され、限られた因子によって形成され、がら私たちの人生、その生涯のありようは、また私たちがこの世に誕生したあと、いかなる人間と出遇い、どういう心の教育をうけるかによって、決定的な方向性が成立していくのです。それは後天的習得的な因

人間といふもの

人生といふものは、一寸先は暗やみです。何が起きてくるかわかりません。その意味においては、生まれつきの因子はそれとしても、私たちがそれの人生をどう生きていいくかについては、その後天的な因子としての、いかなる人と出遇い、どういう心の教育をうけてきたかが、決して人生をもつものです。昔の人が、地域の寺院にお参りして仏法を聴聞し、それぞれの厳しい人生を、いかに生きていくべきかを、心深く学んだものです。

しかしながら、今日においては、そういう人生をめぐる心の学習を修めることが、ほとんどなくなってしまった。そして現代人は、もっぱら物質的、金銭的な豊かさのみを求めて、心を育てて、自立して生きるということを見失ってしまいました。今日の日本ではすでに十数



「教」という漢字は、左側の偏（へん）の孝という字と、右側の旁（つくり）の女という字とが、組み合わされて生まれたものです。その偏の孝とは、父と子が合わされたもので、父とは「まじわる」ことをあらわして、交の字の原型です。かくして父と子とは、子供が大人、先生と交わること、求める」とを意味して、「学ぶ」（まねをする）ことをいいます。そして旁の女とは、もとは与と書いて、人間の動作、ここでは与えることをいい、先生が子供に教えることを意味します。

かくして「教」とは、求める人と、与える人とが、よく相応してこそ、はじめて教えることなるわけです。どれほど立派な教えでも、求めるものがいなければ、何の意味もありません。

私たち現代人の生活は、それなりに豊かさを築いておりますが、精神的な生活、心の営みはまことに不充分です。それぞれの人生をめぐる生活をかりみると、厳しく反省されてくるところです。

東日本大震災復興支援 チャリティーコンサート犠牲者追悼法要

5月15日ひかり幼稚園2階ホールにおいて、東日本大震災の復興支援「チャリティーコンサート」を開催しました。群馬、三重からお越しいただいた大城姉妹に、フルートとピアノの演奏を聞かせていただきました。その音色に「心が洗われた」という感想も…。そしてその後は服部法樹先生の追悼法話をお同行と共に大城姉妹、幼稚園の保護者も入ってお聴聞下さり良いご縁となりました。

5月22日は「犠牲者追悼法要」で正信偈をお勤めし、前住職から「悲しみを超えて生きる」と題して、追悼法話をいただきました。

私たちは東日本大震災の被災者、犠牲者に心を寄せながら、それぞれのできる復興支援をしつつ、この厳しい現実から、私たちもいつ何が起こるか分からぬこの世を、どう生きていくかを学ぶご縁としたいものです。被災地は苦しい状況がまだ続くものと思います。長い目での支援が必要かと思いますので、今後ともご協力宜しくお願い申し上げます。

皆様からお預かりした義捐金は下記の通りです。ご協力ありがとうございました。

¥232,865.- (震災以降～4月末) (5/2)
本堂に設置した募金箱、また呼びかけに応えて、お寺までお届け下さった義捐金等、下記窓口に送金しました。ありがとうございました。

「本願寺たすけあい基金(東日本大震災義捐金)」
¥107,025.- (上記復興支援行事) (5/23)

「中国新聞社会事業団(東日本大震災義捐金)」
※この外ひかり幼稚園設置の義捐金箱への義捐金は、
¥102,519.- (3/29) 「全日本私立幼稚園連合会」
の窓口に送金しました。
色々なところから支援を届けたいと思います。
今後ともご協力の程宜しくお願い申し上げます。

安楽寺マンガ通信

(第13回) 善樂めぐみ作



だなと、ある覚悟みたいなのが生まれて、私にできること、子どもの言葉を育てることとかを一所懸命やつてそこで倒れてもそれでもいいわけだと、多少思うようになったわけです。これも再びまた再び明日死ぬよと言われば、どうゆれるかわかりませんが、少なくともそういう体験をしたということは活かせたと思います。

青木：「こ」へ来る
のを本当に樂
しみにしてき
ました。あち
こちで講演し
てきましたが、
ほとんどどこの
も七〇歳以上
で、幼稚園の
子ども達と会
せて次の人々に
渡せるようにな
したいと思いま
す。

安樂寺法要案内

六月	永代經	日時	6月17日(金)朝・昼 6月18日(土)朝・昼
		講師	兵庫 常徳寺 杵築宏典師
		テーマ	「往生とはどういうことか」
七月	安居会	日時	7月17日(日)朝・昼
		講師	明法寺支坊 熊谷純行師
		テーマ	「凡夫とはどういうことか」
八月	歎喜会	日時	8月13日(土)10:00 8月14日(日)10:00
		講師	信楽峻磨前往職
		テーマ	「先祖の日に思う」
九月	彼岸会	日時	9月18日(日)朝・昼
		講師	五日市 光乗寺 渡邊幸司師
		テーマ	「いのちを生きる」

夏の集いご案内

今年も夏の集いを開催いたします。
今回はテレビで活躍中の「人形遣い」安藤けい一さんが、親鸞聖人と弁円の物語を人形劇で見せて下さいます。是非ご参加下さい。(あらためてご案内します。)
日時：8月3日(水) 18:00～21:00
18:00～ 人形劇「弁円のなみだ」
19:00～ ピヤガーデン

聞思
死に

の記念に、映画「おくりびと」の原作となつた「納棺夫日記」の著者、青木新門氏と、元NHKアナウンサー室長・ことばの杜代表の山根基世氏にお越しいただき、トークをして頂きました。その内容の後半をお届けいたします。「死について」のお話をしでしたので、お目通し下さい。

のシャボン玉は野口雨情が自分の子どもを亡くした。一週間ほどで我が子が死んだときに作った歌ですね。子どもをシャボン玉に見立てて、屋根上で飛ばすにこわれて消えたと。そこにやはり、あの歌にはあの歌の言葉の中に、重い重い、深い深い思いいがあるわけです。それが込められた言葉だからこそ、こうして歌い続けられるのです。

思いました。死を忌み嫌い、死を畏れ不安がる人と、そうでない人に別れます。ローマの哲人のセデカが「人が死を畏れたり不安がつたりするのは、死そのものに対してではなくて、死の付帯物を見て畏れる」と言われています。多分そうなのだろうと思いません。

「つららの坊や」なん
です。



「どう」とは第一回目の細胞分裂で
もう死はインプツ

たり前のようにつながっている。そういう。それが原点で私の本の中の「ウジが光って見えた」という言葉を選んで、そこから今話が始まつてあの映画ができる。だから生と死を分けるというのがおかしい。良寛さんの「裏を見せ表を見せて散るもみじ」という句がありますが、「一枚もんである」というと考え方をしないと間違つてしまふ。

「」のところが難しいところです。受精卵の第一回目の細胞分裂の中にDNAでそこは何回で細胞分裂が止まるかと言うこと

生き方は明るい」というゲートの言葉がある。老とか病とかといふのは死がないということならばこんな樂なことはない。病院へ行つて何にもしないで寝ていればよくて、死はないっていふんだから。死を解決しないとダメです。マザーテレサが日本へ来て「こんなに美しくこんなに豊かな国なのに、世界中で一番日本人はくらいい顔をしているのは、死の問題を解決していくからだと思います。」と言いました。死の問題を解決すると明るく生きれます。これがだけ

ます。本当に切実な問題として
多分私がやろうとしていること
の途中で倒れるだろうと思いま
す。私の部屋を片付けてきれい
にして逝きたいなと思つていった
が、多分それまでに逝つちゃう
だらうと思います。でもまさこれ
でいいんだ。生きるというのは
そういうことなんだと思います。
私今できること、子ども達を育
てること、それを少しでもバト
ンタッチできればと思います。
私が受け取ったバトンを、太ら

えると思うと、遠足の前夜みをいに、眠れませんでした。子じも達はとてもいいですね。スーと入ってきまですからね。大人はヘンな壁やフィルターをもつていて、アインシュタインが「ブルトニウムは変化させることはできても、人間の脳に張り付いた概念は変化させることができない。」といつてゐる通りです。私たち大人は世の中の価値観でものを判断しようとするしかし先ほどの子ども達はそ

いつた価値観はまだついていませんから、なんでも受け入れられるという感じを受けた。とてもうれしく楽しくきょうは過ごすことができました。ありがとうございました。

最後は、「しゃぼん玉」をみんなで歌い、「世界が一つになるまで」の大合唱で終わりました。みんな同じ「しゃぼん玉」のような命ですが、そのいのちが一つになる世界があります。そのことを両師はお伝え下さいましたのだと思います。